クラーク政権初の所信表明

経済問題を最重要視

対話と協力で対州関係に新時代を

五月に発足したクラーク政権は、十月九日に召集された下院で進歩保守党内閣の施政方針を発表した。エドワード・シュライヤー総督が朗読した施政方針演説（正式には〝勅語〟と呼ばれる）によると、新内閣は〝話合いと協力〟を通じて連邦・州間の融和を図るほか、カナダ経済を強化し、また原子力、文化、外資、身障者対策などに関して再検討するという。演説のおよそ半分は経済政策に費やされた。要旨は次の通り。

基本方針

一、カナダ国民は政治に変革をもたらした。カナダ国民ひとりひとりの権利、自由そして機会を高め、カナダ連邦の根本である連邦と更新の精神を再確立することが、その変革の基本目的である。

一、新内閣は、また、カナダのもつ優れた点――一大市場と三つの大洋に面し、天然資源に恵まれ、多様な文化と地域性をもっていること――を活用する意向である。

連邦・州関係に新時代を

一、新内閣は、就任以来、連邦対州の関係を改善するよう、あらゆる努力を傾けてきた。その結果、目ざましい進展が見られた。宝くじに関して協定が締結され、沿岸の鉱物資源についても、いくつかの沿海州と基本的な合意に達した。連邦・州関係にこうした変革を実現することは、現政府の理念の基本をなすものである。州との協力を通じて、具体的諸問題の現実的解決を求めている。政府は連邦・州関係に新時代をもたらすことを重要目標にしている。話合いと協力が、この新時代の看板となろう。今や意見の相違を融和させ、力を合わせなければならない。

主な提案・検討事項

一、「情報の自由」法の制定。政府情報は国民が入手できるようにする。例外は限定し、かつ具体的に規定する。例外の適用に関する紛争は、政府とは独立した機関によって解決されるようにする。

一、「インディアン法」の一部修正。現行法によると、インディアンの女性がインディアン以外の男性と結婚すると、インディアンとしての諸権利を失う。その部分を修正し、不公平を無くする。

一、配偶者手当てを、現在同手当ての対象になっていない配偶者にも支給する。

一、在郷軍人に関する法律を一部修正する。

核エネルギー開発を検討

一、国民ひとりひとりのプライバシーをさらに尊重する。

一、議会の権限を拡大するための諸改革。委員会の権限と能力を強化し、議員の発議権を高め、議会に対する閣僚の責任を増大する。

一、身体障害者の特殊なニーズ、ボランティア活動の役割を強化する措置、外資審査庁の運営など外資に関する諸政策、大規模公共事業におけるコスト超過を防止するための必要措置――を検討する四つの特別小委員会の即時設置。

一、カナダにおける将来の核エネルギ

職杖を肩に、下院議長、首相、下院議員を上院に案内する宮内官。

カナダ議会の開院式

カナダ議会の開院式は、伝統にのっとっておごそかに行なわれる。まず、女王陛下の名代である総督が、儀礼服を着用した騎馬警察隊の一行に守られて、4頭だての馬車でリドー・ホール（公邸）から議事堂へ向かう。総督は議事堂正面にある「平和の塔」（Peace Tower）の玄関で馬車から降り、儀伏兵を観閲したあと議事堂に入る。

一方、上院の宮内官（Gentleman Usher of the Black Rod）が下院へ赴き、282人の下院議員を総督が勅語を朗読する上院（議事堂の反対側――向かって右側にある）に案内する。下院議員は、首相と閣僚を先頭に、宮内官に従って下院から上院（議席数104）に入場し、そこで上院議員および最高裁判事とともに勅語を拝聴するわけである。勅語は、カナダの公用語である英仏両語で朗読される。もちろん、女王陛下が自らご出席して勅語を読まれることもある。

カナダ連邦議会の開院式における勅語朗読は昔、英国国王が近侍の武士（のちの世襲貴族）を相手に行なった訓話がそのはじまりだという。しかし現在のカナダでは、女王も総督も勅語の内容には関与しない。勅語の肝心な部分、すなわち施政方針や諸提案は、首相および閣僚の指示のもとに、上級官僚が作製する。

開会2日目は首相が勅語にもられた主な提案について説明したあと、在野党首領（トルドー自由党党首）とその他の野党党首がそれぞれの主張を展開する。

これでいよいよ審議が開始するわけである。